



守備練習に汗を流す八学光星ナイン＝八学光星グラウンド

光星 光る勝負強さ

「ムード上がっている」

打撃で勝利を積み重ねてきた。チームのムードは上がれば、ロースコアの「展開でも試合をものに」主将洗平歩は「タフな主戦としても」投手陣が「きると思う」と意気込んで、全力で最少失点で切りだ。

がっぷり組み好ゲームに

▷八学光星・仲井宗基監督（同地区の八工大と）お互い手の内が分かっている者同士、がっぷり組んで良いゲームをしたい。相手の鍛え上げられている機動力に対して慌てないようにしていく。総力戦なので全員がキーマンになる。

第104回全国高校野球選手権青森大会は最終日の22日、同地区対決となる八工大―八学光星の決勝を行う。両校の選手たちは21日、準決勝の疲れをほぐしながらコンディションを整え、甲子園を懸けた最終決戦に闘志を燃やした。12年ぶりの優勝を狙う八工大は、積極的な走塁を武器に、上位から下位までどこからでも得点できるのが強

全国高校野球 青森大会

きょう決勝

第104回

み。主戦廣野と捕手葛西の息もひたたりで、強力打線が相手でも容易には崩れない。通算11回目の頂点を目指す八学光星は、勝負強さと守備の堅さが売りで、ロースコアの接戦をものにしたい。主戦洗平歩、宇田、富井ら豊富な投手陣の小刻みな継投がはまれれば、3年ぶりの甲子園出場が近づく。決勝は午後1時、弘前市のはるか夢球場でプレーボール。（本紙取材班）

八学光星は八戸市内の同校グラウンドで、午前8時からウォーミングアップや守備練習をこなした。打撃練習の際には一時土砂降りに見舞われ室内練習場に移ったが、集中力を切らすことなくバットを振り、約3時間の練習を終えた。準決勝まで3試合連続で先制を許しながらも、粘り強く逆転勝ち。投手6人による継投と、好機を確実に捉える勝負強い